

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

64

地域医療・介護連携推進センター（ライフドアすわ）の事業のひとつ、生活支援体制整備事業についてお話しします。

いま、この取り組みがどうして必要なのでしょう。今後、65歳以上の高齢者数が増加します。また、『認知症高齢者』や『高齢者のみ世帯』が増加します。それに伴い高齢者が日常生活を送っていく上でのニーズも急増すると予測されており、地域での支え合いが今まで以上に必要となります。

私たちが暮らす諏訪市はど



うでしょうか。諏訪市の人口は今後減少傾向が続く見込みです。一方、75歳以上の後期高齢者人口は増加を続け、2020年から2025年の5年間で1000人増加する見込みです。高齢化率は2020年の30・5%からゆるやかに増加し2025年には31・9%となる見込みです。「人

しば た ひろ み
柴田 裕美

諏訪市地域医療・介護連携推進センター
生活支援コーディネーター（諏訪市社協）

口減少、少子高齢化」は社会課題ではなく、わかり切っているこれからの暮らしであるということ。つまり、私たちは人口減少・少子高齢化において「困ったね」で終わらせるのではなく「暮らしのちよつと先、ちよつといい未来」をどのようにして作るかを真剣に考える必要があります。

生活支援体制整備事業の目標は「地域住民の互助による助け合い活動を推進し、地域全体で高齢者の生活を支える、生活支援・介護予防の体制づくりを進める」となっています。そこで「ライフドアすわ」では生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を配置しています。

生活支援コーディネーターの役割は①地域の実情にあわせた支え合いの活動やしくみ

3月17日に行われた協議体の準備会



の充実・強化・創出②地域の高齢者をはじめとした地域住民の社会参加の促進③地域の多様な人・場所・活動がつながるネットワークの構築④協議体の設置の4つがあります。

4つ目の「協議体」という言葉をご存じでしょうか。「協議体」とは地域住民や地縁組織、関係団体、専門機関等、地域に関わるさまざまな人たちと、地域の現状や困りごと・課題を共有し、必要な取り組みやしくみ等について話し合いをする場です。

諏訪市では新型コロナウイルス感染症の影響で休止していました。今年度はこの協議体での話し合いを今まで以上に活発にするために、令和5年3月17日に準備会を開催しました。「暮らしのちよつと先を考え、ちよつといい未来」を皆さんと一緒に創造していくことを楽しみにしています。

（毎月第2日曜日掲載）

ちよつといい未来をみんなで考える